

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

ほつ寺通信

※皆さんでご覧ください。

第23号

令和2年10月1日
＜発行責任者＞
(住職) 藤野慶正

報恩講について

例年行っております報恩講ですが、現在(9月上旬)の新型コロナウイルス感染者の推移を見ていると、今年は中止もやむを得ないとも思われましたが、浄土真宗の門徒にとつても大切な法要でもあり、出来ることなら開催したいという思いが寺院にありました。

そこで、役員相談の結果、正山寺檀家の代表である24名の世話人様のみ参詣をお願いし、小規模ながら報恩講を11月8日に開催することが決まりました。申し訳ありませんが、当日は寺へ来て頂いても構いませんが、本堂での報恩講法要への参加はご遠慮ください。よろしくお願ひします。

また、新たな試みとして、当日の様子をライブ配信(YouTube)する予定です。手持ちの機材

で余り予算をかけずに行いますので、あくまで雰囲気味わつて頂く形になるかと思ひます。



Shousan Temple
チャンネル
11月8日(日曜)
11時スタート

事前に、こちらのQRコードからチャンネル登録し、当日の配信をお待ち下さい。お時間が許せばパソコンやスマホ越しにて報恩講にご参加下さい。基本的にYouTube視聴環境のある方はご参加いただけると思ひます。分からない方はお子さん等に聞かれるなどご家族のふれあいの一環としていただけたら幸いです。(事前にテストはしますが、上手く配信できなかった場合はご容赦下さい)

住職の仏々ぶつぶつ

中々収まらないコロナ禍中、皆様いかがお過ごしでしょうか。今夏は感染者急増に伴い県跨ぎ自粛の動きもあり、お盆の里帰りを控える方も多かったのではないのでしょうか。また、春先の3ヶ月に渡る休校の影響で、夏休みの短縮もあり、本場に今までにない特別な夏を経験したことになりました。

しかし、考えようによつては、外出を控えることにより、連日の猛暑による熱中症が避けられ、家族との密な関係構築にも繋がったのではないのでしょうか。物事の考え方には表と裏があり、表裏一体です。どちらに偏ることなく、常に表裏を考えられるようになることは、人生を穏やかに豊かに過ごすコツになりましょう。これは仏教の中道の教え(どちらにも偏らない心)にも通じます。

最近では、ウィズコロナと称して、コロナ禍中での新生活形態を模索する動きも出てきています。是非皆様も感染に気をつけつつも、コロナありきの社会を毛嫌

することなく、この地球規模的な難局を乗り越えていきましょう。

恩徳讃おんどくさん

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
骨を砕きても謝すべし

恩徳讃、浄土真宗の法事や法会に参加したことがあるかと思ひます。そして、メロディーも頭に浮かぶのではないのでしょうか。正山寺でも法事(報恩講含む)の最後など要所所で登場しますので、ご存知の方も多いはず・・・

恩徳讃は親鸞聖人が86歳の時に作られた「正像末和讃」の一首に曲譜を付けた讃歌です。恩はそのま「ご恩」、徳は「恵み」、讃は「讃える」歌。身を粉にとか、骨を砕くなど極端な表現がありますが、これは四字熟語にもある「粉骨碎身」。それほどまでして報恩感謝すべきであるという比喩表現でしょう。(裏面に続く)

それでは、何に感謝すべきなのかと言うと、「如来大悲」（阿弥陀如来の大きな慈悲、救い）と「師主知識」（仏教を開かれたお釈迦様、そしてその教えを伝えてくださった方々、師、先生）です。仏教では「恩」を大切にします。

- 知恩（ちおん）：恩を知り。
- 感恩（かんおん）：恩に感謝し。
- 報恩（ほうおん）：恩に報いようとす。

私達が身近で深く思うのは、「親の恩」でしょうか。しかし、それ以上に大きな恩が仏教には存在します。それを教えてくださったのが「恩徳讃」であり、浄土真宗の宗祖親鸞聖人でもあります。そして、そのご恩に報いるのが報恩講。冒頭で浄土真宗の門徒にとつてとても大切なと申した訳が分かり頂けるかと思えます。

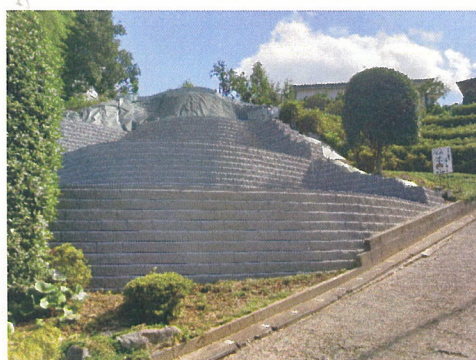


正山寺本堂の聖人御絵像

土砂崩れの修繕

昨年の台風の影響による影響で、正山寺大門を超えた左斜面が土砂崩れを起こしていました。幸い他への影響が無かったものの、今後の豪雨等でさらなる崩壊も考えられるため、業者にいくつか見積もりを出してもらい、修繕を検討していました。大門を超え少々目立つ場所でもあるので、予算を抑えつつも見た目もある程度重視したブロック積みによる施工になりました。6〜7月に渡り、参詣者にご迷惑をお掛けしたこと、この紙面にてお詫び申し上げます。

コロナ禍中の梅雨時にも関わらず、業者の卓越なる施工により、



かくも重厚で立派な修繕が行えたこと、報告させていただきます。

坊守のコラム

ほうもり※住職の妻

コロナ禍に加え、長引く梅雨、厳しい猛暑、勢力を増す台風等、穏やかな季節感を感じる事が出来ずに、異常気象に振り回されています。今後も観測史上初だの最悪の…との言葉を形容詞につけたような日々が続かぬよう願うばかりです。さて、今回は、どんな事を書こうかと考えたのですが、夏休みは、あまり出かけられず、家で映画を見たり、花火をしたり。10月の小学校の運動会も縮小開催で、保護者は、2種目で30分のみのお観覧だけ。なんだか愚痴っぽく、マイナス思考の言葉しか浮かびません。表裏の住職の言葉にありました表裏一体。物事の捉え方として、私は裏側ばかりで捉えてきたことに、改めて気づきました。同じ出来事でも違う見方でプラス思考に考えられるようになる、過ごし方も考え方も広がりそうです。まずは、寝る前に、今日一日の出来事を表側から振り返る習慣を作ってみようかな。あつ、私は、そんなことを考える間もな

く、深い眠りにすぐに落ちてしまいます。すぐに眠れると言ふ事は、いい事でもありますかね。（笑）

あとがき

今夏は本当に暑い日が多かったかと思いますが、この寺報が届く頃は涼しくなっていますでしょうか。コロナも落ち着いてくれると良いのですが、もう今年は潔く諦めてコロナありきのウィズコロナの精神で行きましょう。報恩講は皆さんに参加してもらえず残念ですが、初の試みのライブ配信予定があります。これなどウィズコロナの賜物：何事も表裏一体、考え方次第です。皆様、お元気で。

寺報「ほっ寺通信」 第23号

浄土真宗東本願寺派 正山寺

住職：藤野慶正（発行責任者）
 住所：〒194-0201 東京都上野区山田1-5-0
 電話：042-797-1446
 FAX：042-797-9233
 URL：<http://shousan.net>
 メール：info@shousan.net